

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	野うさぎ			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 10日		～ 2025年 1月 29日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数)	29名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 28日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小さな出来たを積み重ね、自主的に参加できるような支援をしていること。	個々のお子様の特性を十分理解し、一緒に楽しみながら関係性を築き、お子様自らが意欲的に取り組めるような言葉かけと関わりを持ち、自信を持ってプログラムに参加できるように支援している。	プログラムを通して、得意なこと・苦手なことを知り、再度支援方針を検討し、実施。小さな出来たの積み重ねでさらに自信につなげていく。
2	活動プログラムの内容を立案する際、必ず目的を明確にし企画することを心がけている。	5領域を念頭に、四季を実感できるイベント企画や、体験学習、身辺自立に向けた学習や、良好な対人関係の学習、実体験につながるような疑似体験企画など、いろいろな活動が経験できる工夫をしている。	職員からの立案だけでなく、イベント企画に児童も参加し、スケジュールに組み込み実績を積む。自分のやりたいことだけでなく、みんなでできることを企画できるようなアプローチも心がけ取り組む。
3	お互いを認め合えるような関わりを、意識した言葉かけ。	完璧な人間は誰一人居ない。できることもたくさんあるし、間違えることも失敗することもある。大人だから完璧でもなく、子どもだから何でも許されるわけでもない。色んな人がいてそれぞれの個性を認め合う。自分自身を認めてあげる。この気持ちを大切にできる支援を心がけている。	一緒におふざけし、一緒に叱られ、一緒に楽しむ。そして、一緒に成長する。この先の幸せにつながる関わりを持ち続ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会が少ないこと。	感染症対策に苦悩し、なかなか開催に至らなかった経緯があり見合わせていました。	事業所合同のイベントに参加予定。※R7.3.22
2	父母会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者さま同士の交流の機会が設けられているが、ごきょうだい向けの交流の機会が設けられていない。	保護者会の開催は、定期的に実施出来ているが、ごきょうだい向けの交流会は、支援スタッフの数に限りがあり、なかなか開催には至っていない。	事業所スタッフだけの開催が難しいため、ボランティア依頼やインフォーマル支援者の協力依頼・法人の取り組みとして開催を検討など、実施に向けて計画していく。
3	定期的に避難訓練を実施しているが、利用児童全員に参加してもらうことが出来ていない。	避難訓練の実施日に通所予定の無いお子様は参加できない為、皆が参加できるような工夫が必要。避難訓練実施を平日に開催することが難しく、土曜日開催が多く参加児童に偏りがある。	実際に避難が必要になったときにスムーズに行動できるよう、避難訓練の実施回数を増やし皆が体験できる機会を増やす。